

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

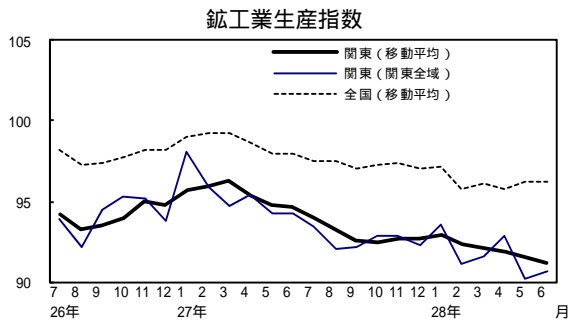
前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年5月)	今回(平成28年8月)	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は弱含んでいる。(関東全域)

輸送機械は国内向け、海外向けともに自動車用エンジンや機関部品等を中心に増加した。電気機械はセパレート型エアコン等を中心に減少した。情報通信機械はデジタル伝送装置やデスクトップ型パソコン等を中心に減少した。生産用機械は海外向けの半導体製造装置やマシンングセンタ等を中心に減少した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

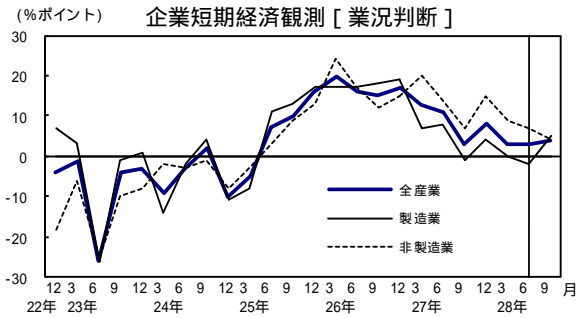
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1~3 月期	4~6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	18.6	0.5	0.5	6.8	3.4	1.0
化学	15.1	0.2	-	0.3	8.2	-
電気機械	9.3	1.8	1.0	2.1	3.4	2.1
情報通信機械	6.2	5.2	3.2	7.6	23.0	12.1
生産用機械	6.1	0.8	0.9	1.2	0.4	4.9
鉱工業	100.0	0.6	1.0	1.3	2.8	0.4

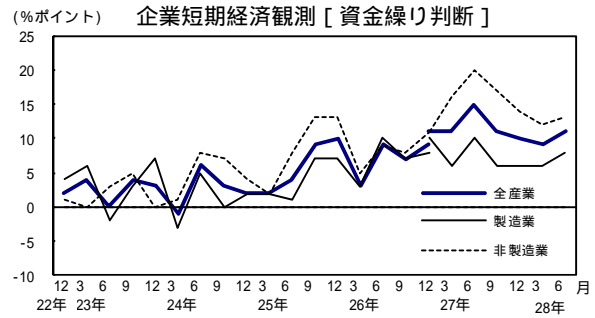
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4~6月期、6月は速報値。化学は速報値では公表されていない。

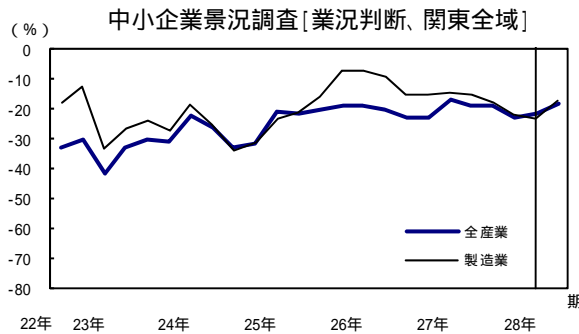
(2) 業況判断は「良い」超幅が横ばい、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。

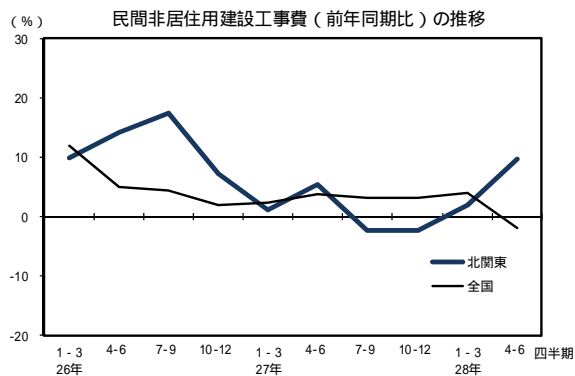


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「この2～3か月の受注量、取引先の様子等は、どちらかといえば良い方向であるが、あまり変わらない(輸送用機械器具製造業)」等の回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	27年度実績	28年度計画
全産業	2.4 (0.3)	10.4
製造業	1.6 (1.8)	26.0
非製造業	11.4 (5.9)	29.1

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

日本銀行前橋支店管内。

(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.5%増、5月は同1.4%減、6月は同0.0%増となった。

百貨店・スーパー販売額

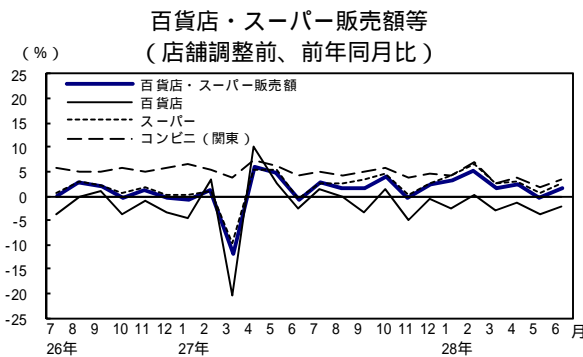
百貨店は、4月は春物・夏物の衣料品や身の回り品、家庭用品の動き等が鈍かったこと等から、前年を下回った。5月も衣料品、身の回り品、家庭用品の動きが不調だったこと等から、前年を下回った。6月も衣料品、身の回り品、家庭用品の動きが不調だったこと等から、前年を下回った。

スーパーは、飲食料品や化粧品等のその他商品等が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

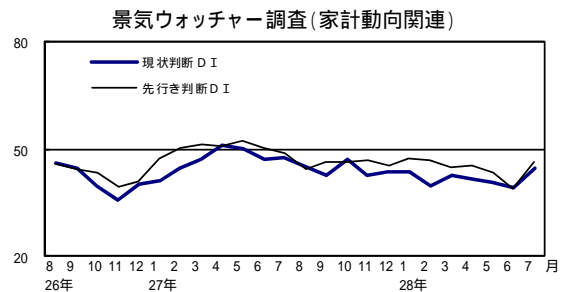
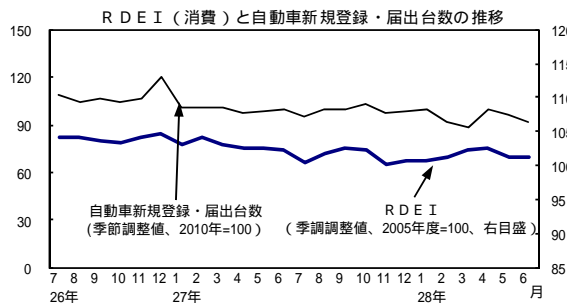
北関東地域の家計動向関連DIは、45.0となり前月より5.8ポイント上昇した。

「今まで極めて不調であった婦人アパレルは、クリアランスセール開始と共に、前年実績を確保するレベルにまで回復している。その反面、お中元ギフト商戦は法人需要の減少が顕著で、前年割れの結果となっている。全体でみると前年実績確保には至らず、依然として厳しい状況である (百貨店)」等「変わらない」とする回答が増加した。



	28年4-6月	28年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.4	0.5	1.4	0.0
百貨店・スーパー(*2)	1.2	2.2	0.4	1.8
百貨店(*2)	2.4	1.5	3.6	2.0
スーパー(*2)	1.9	3.0	0.5	2.5
コンビニ(*2)	2.9	3.6	1.8	3.3
乗用車(*3)	3.9	0.1	2.2	8.1
(季節調整値)(*3)	2.8	12.4	2.5	5.1

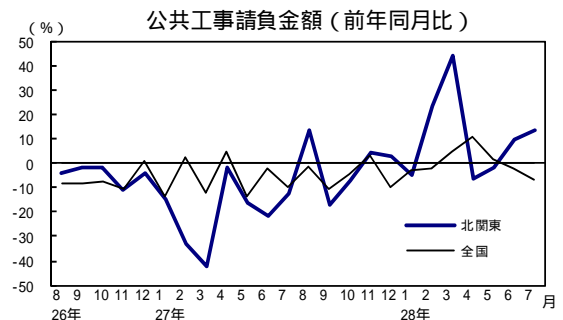
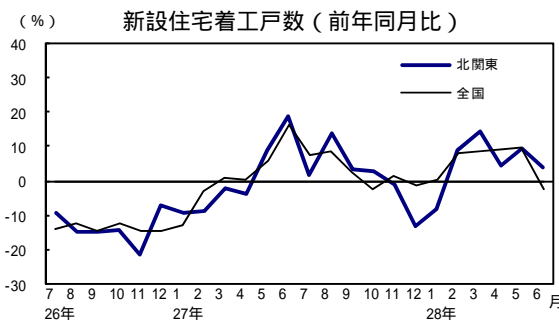
- (備考) 1. 季節調整済前期 (月) 比 (%)
 2. 店舗調整前、前年同 (月) 期比 (新潟、静岡を含む) コンビニは、関東全域
 3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期 (月比 (%)))



(2) 住宅建設は増加している。

貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は28年度累計でみると前年度を上回っている。

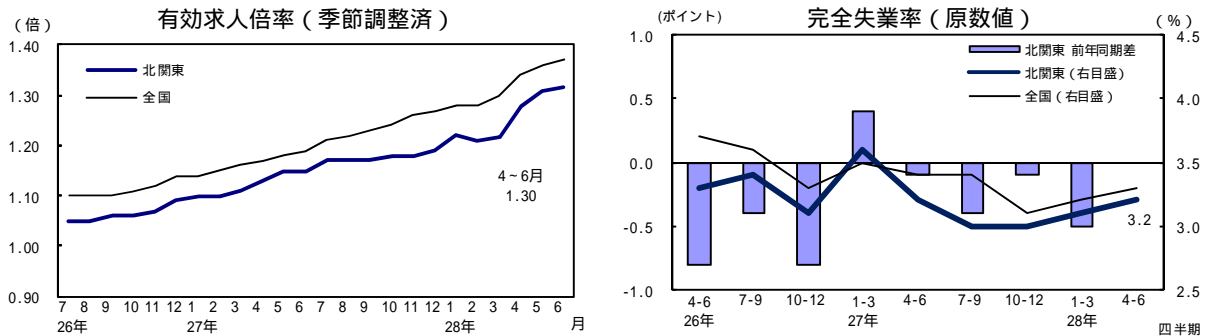


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [雇用関連 (現状)]

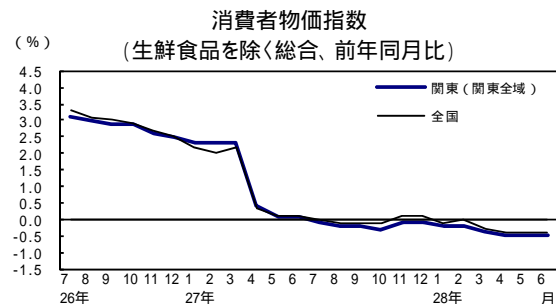
「公共事業や住宅関連、土木建設、建築は横ばい状態が続いている。機械部品や電子等の製造部門は、生産調整もなく、かえって求人も多く出し、活発さを見せている。衣料品等の夏物商戦は、今月は補充程度である。生鮮食料品なども購買力は上がっているように見受けられる(人材派遣会社)」等の回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年7-9月	10-12月	28年1-3月	4-6月	28年7月
倒産件数	130	120	136	123	38
(前年比)	15.6	14.9	6.8	6.0	22.4
負債総額	395	228	343	248	327
(前年比)	27.9	0.2	35.1	7.8	210.7



景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・7月は天候に恵まれ、月末まで暑い日がほぼ毎日続き、特に季節商材のエアコン、扇風機、飲料水等の物量が増え、15%ほど輸送量が増えている(輸送業)

<先行き>

- ・お土産は箱菓子のような食品類より、多少高くても自分用の実用的なものが売れるようになってきた。食事もこだわりとストーリー性のあるものがよく売れている。売れるための工夫が必要である(観光名所)

